学校の規模や配置に関するアンケート調査について

資料　1

1　実施期間　令和４年６月２４日（金）～７月１０日（日）

2　実施方法　Webによるアンケート

3　対象者　小中学校児童生徒及び未就学児の保護者
学校運営協議会委員（教職員・保護者除く）
小学校５年生及び中学校２年生
うべ未来モニター登録者

4　回答率

■一般（小中学生及び未就学児の保護者、学校運営協議会委員）

回答者数　2,761人(配付数13,117)
回答率　21.0％
（同一世帯が２割から３割程度あることを勘案すると26％～30％）

■うべ未来モニター

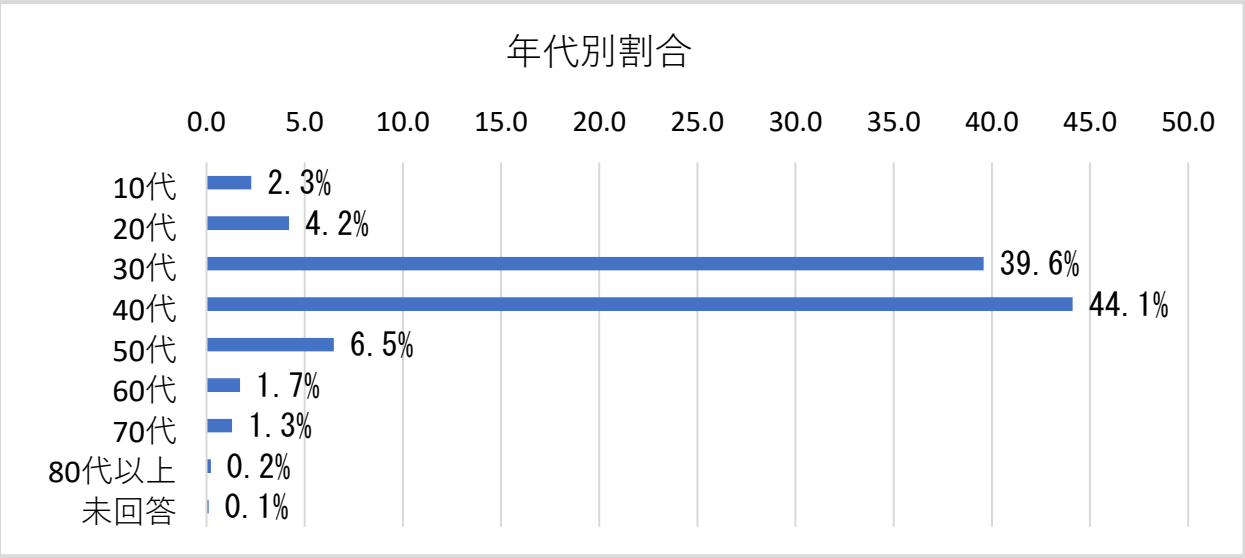
回答者数　401件（登録者数868人）
回答率　46.2％

■児童生徒（小学5年生及び中学2年生）

電子申請1,898件（配付数2,523）
回答率　75.2％

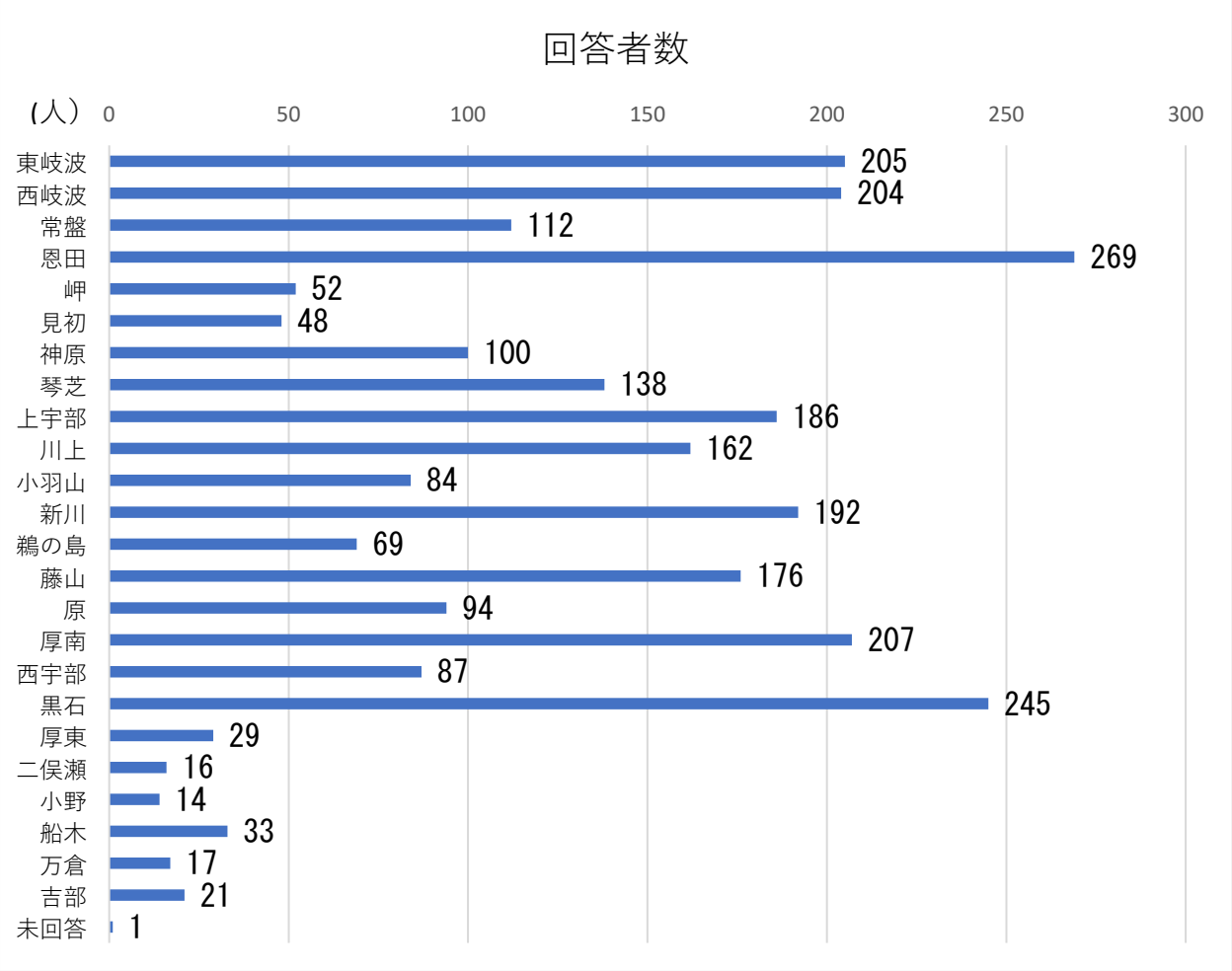
■一般回答（小中学生及び未就学児の保護者、学校運営協議会委員）

問１　あなたの年齢区分をお答えください。

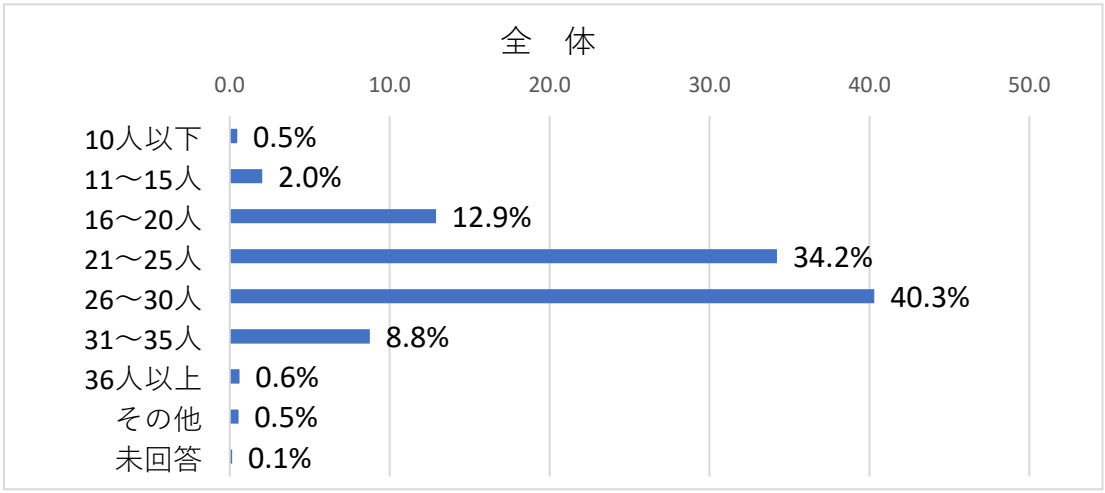


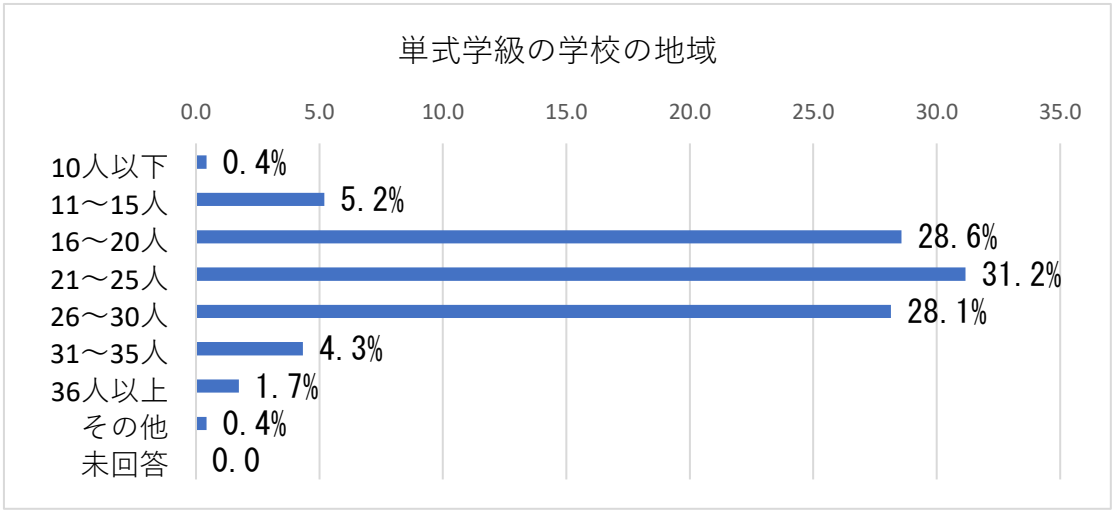
年代別割合では、４０代が４４.１％、３０代が３９.６％で３０代、４０代合わせると８３.７％となっている。

問２　あなたの居住する地区（校区）をお答えください。

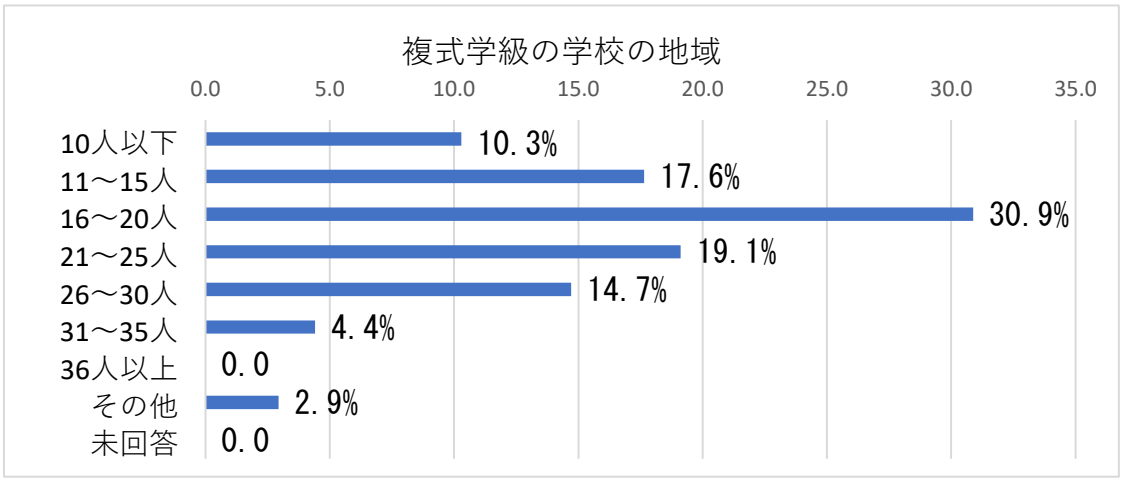


問３　あなたは、小学校１学級の児童数としては、何人くらいが望ましいと思いますか。





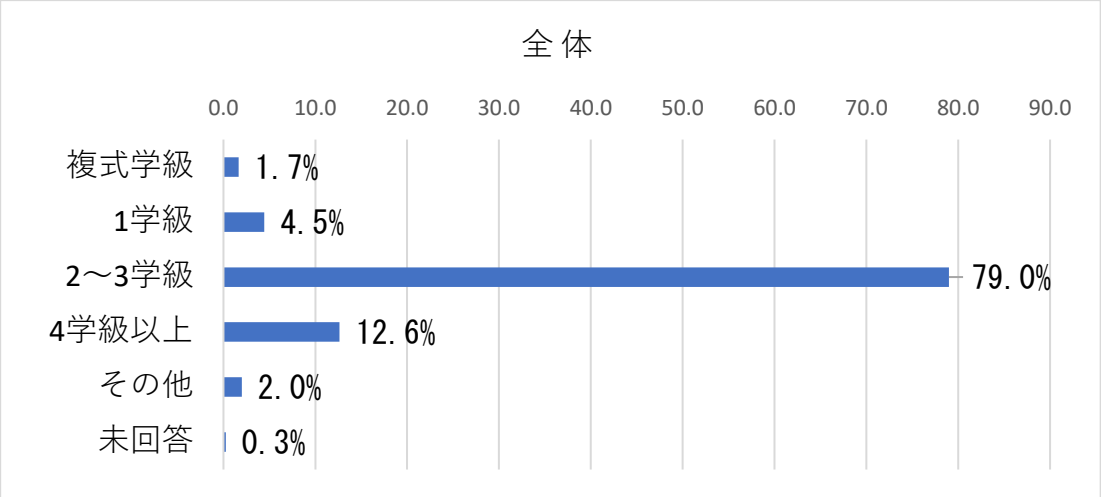
※単式学級の学校：岬・見初・鵜の島・厚東・船木

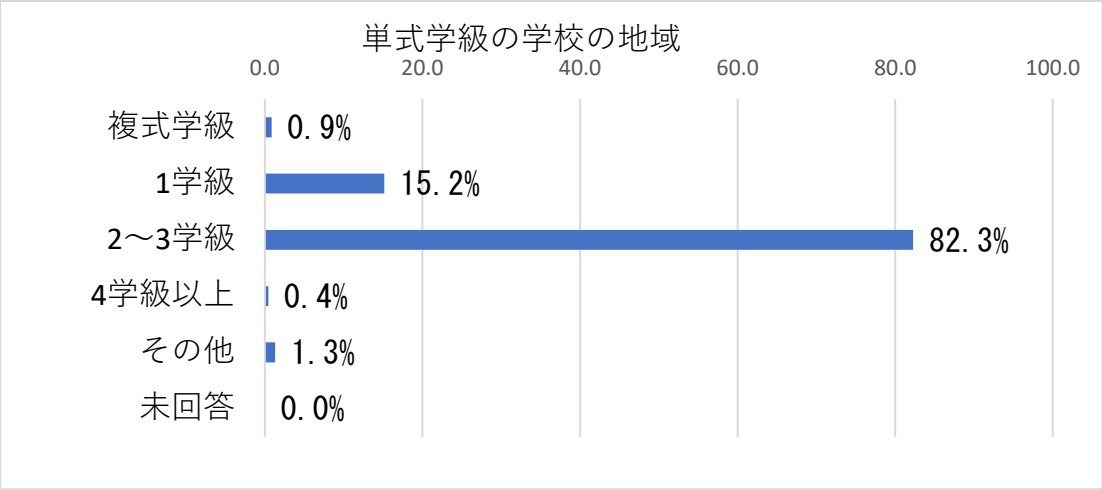


※複式学級の学校：二俣瀬・小野・吉部・万倉

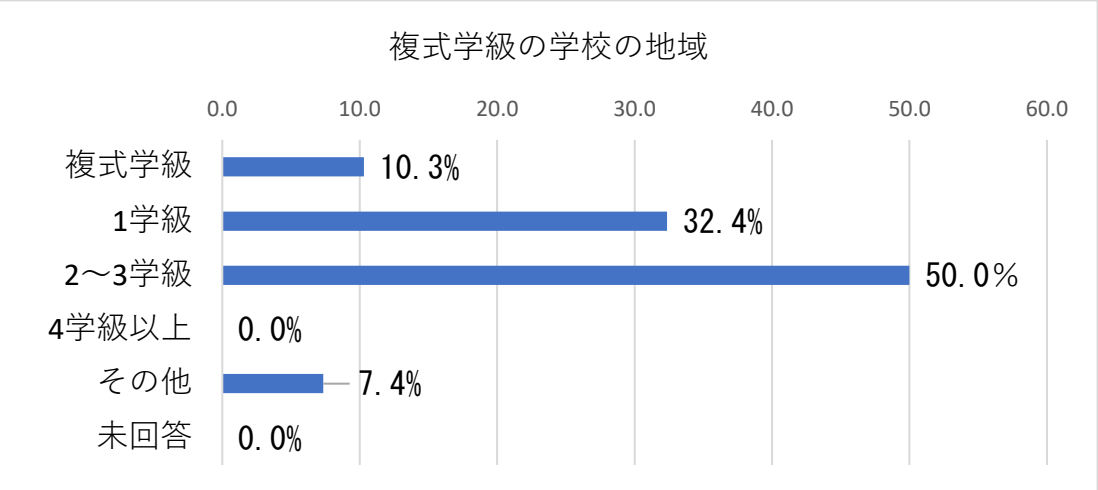
小学校１学級の児童数として全体では、26～30人が40.3％と最も多く、次に21～25人の34.2％となり、単式学級の学校の地域では16～20人、21～25人、26～30人が３０％前後と同程度の割合であり、複式学級の学校の地域では16～20人が30.9％となっている。

問４　小学校の１学年の学級の構成としてはどれくらいが適切だと思いますか。





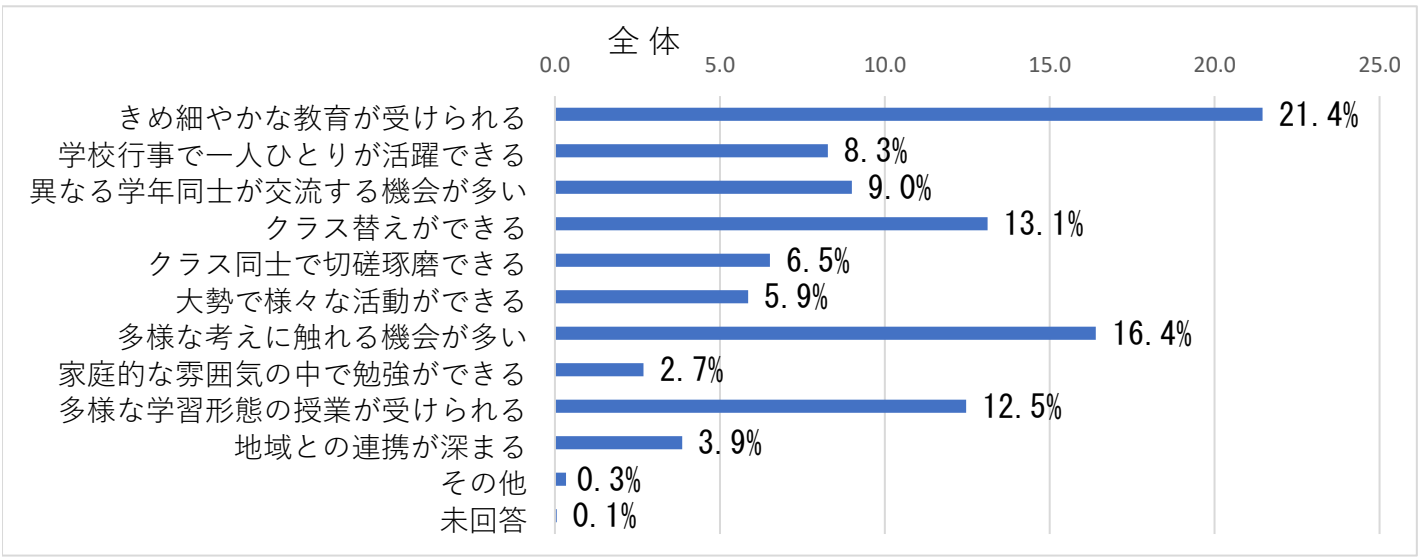
※単式学級の学校：岬・見初・鵜の島・厚東・船木

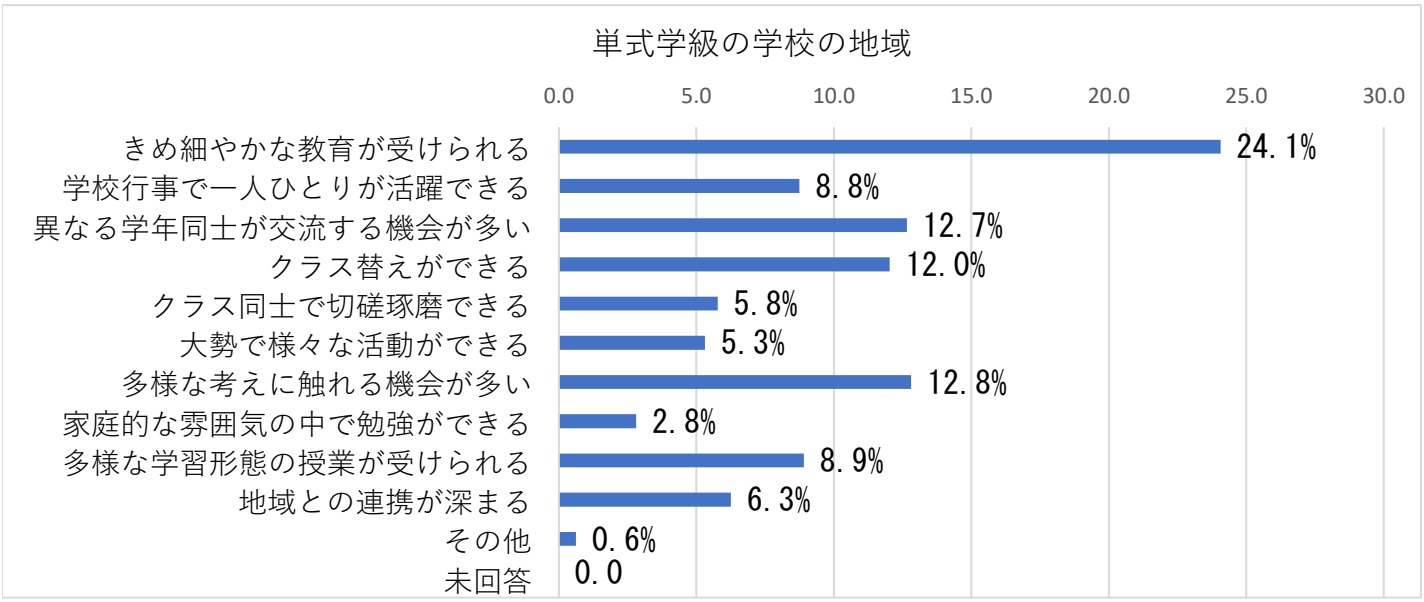


※複式学級の学校：二俣瀬・小野・吉部・万倉

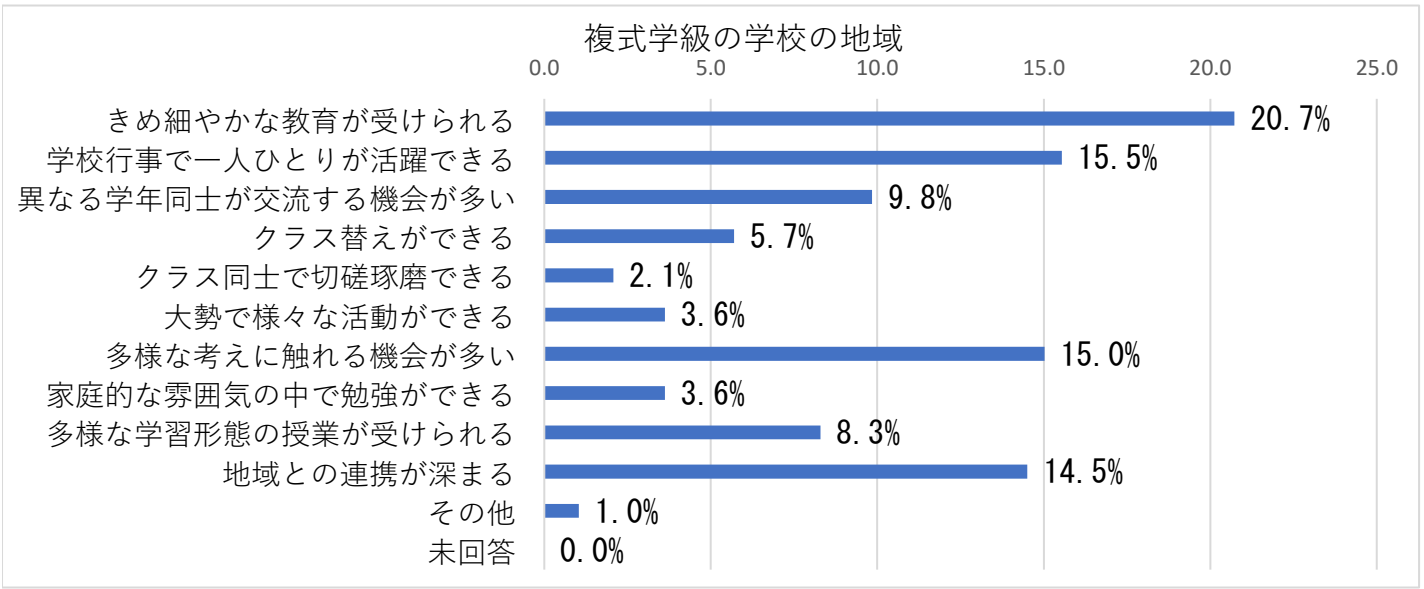
小学校の1学年の学級構成としては、全体では２～3学級が79%と最も多く、単式学級の学校の地域では、その割合が更に高く82.3%。複式学級の学校の地域では50%となり、全体や小規模学校の地域いずれにおいても２～３学級の割合が高い結果となっている。

問５　小学校の規模を考えるうえで、あなたが大切だと思う点をお答えください(3つ以内に〇)





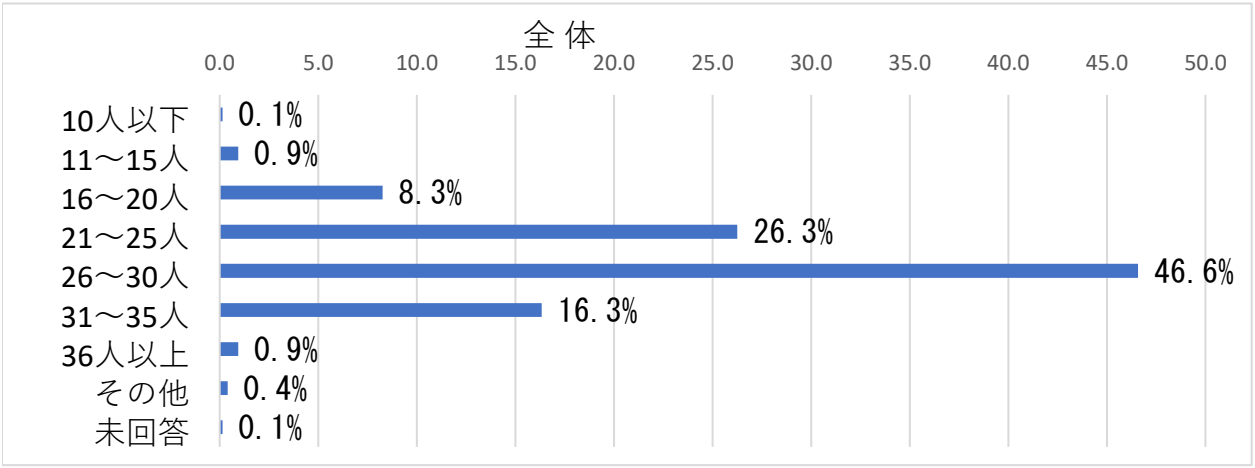
※単式学級の学校：岬・見初・鵜の島・厚東・船木

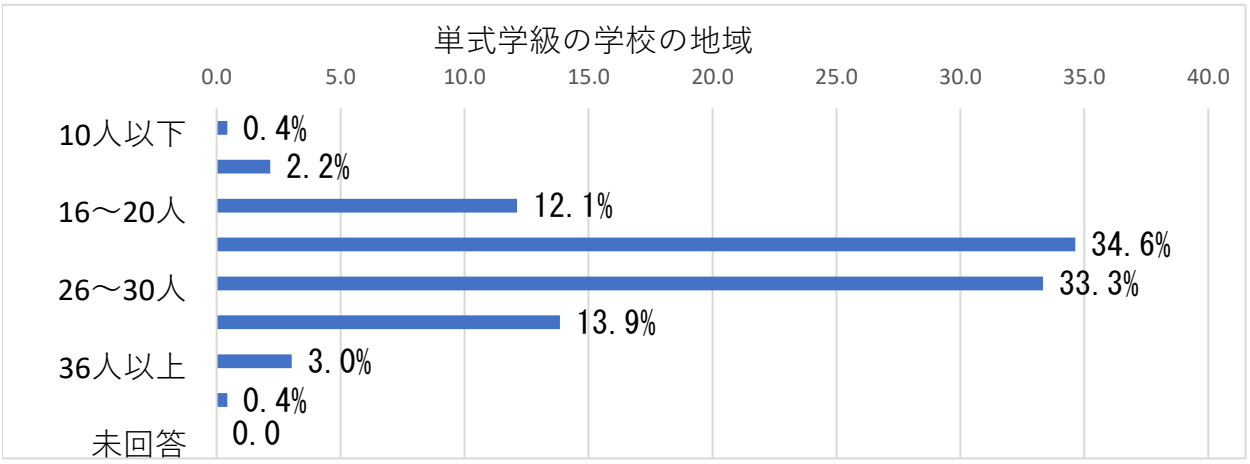


※複式学級の学校：二俣瀬・小野・吉部・万倉

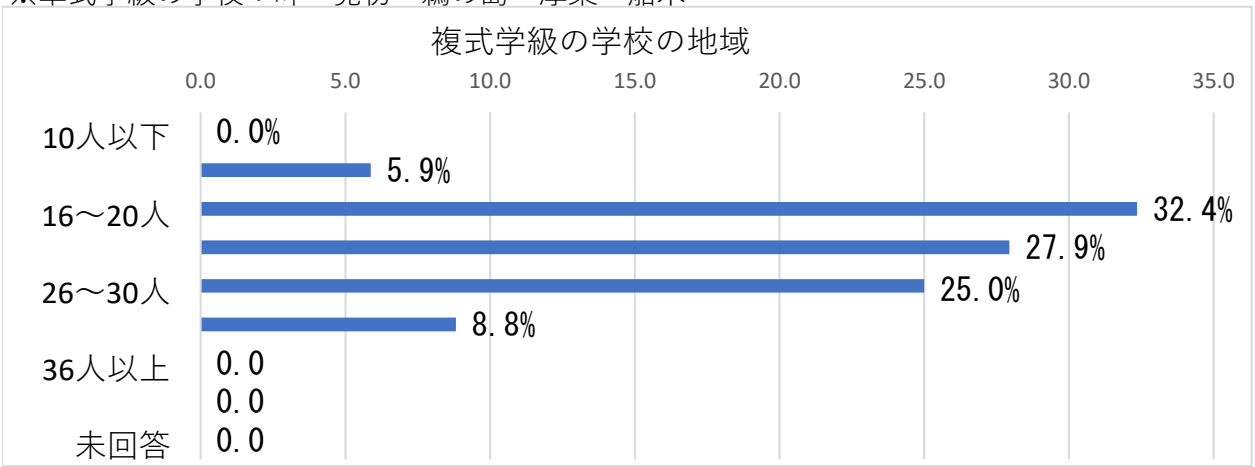
小学校の規模を考えるうえで大切と思う点について、全体では「きめ細やかな教育が受けられる」「多様な考えに触れる機会が多い」「クラス替えができる」の順に高い割合を示している。「きめ細やかな授業が受けられる」については、小規模校の地域においても同様に一番割合が高く「多様な考えに触れる機会が多い」についても高い割合となっているが、単式学級の学校の地域では「異なる学年同士が交流する機会が多い」「クラス替えができる」が同程度の割合が見られる。また、複式学級の学校の地域では「学校行事で一人ひとりが活躍できる」「地域との連携が深まる」が同程度の割合が見られる。

問６　あなたは、中学校の１学級の生徒数としては、何人くらいが望ましいと思いますか。





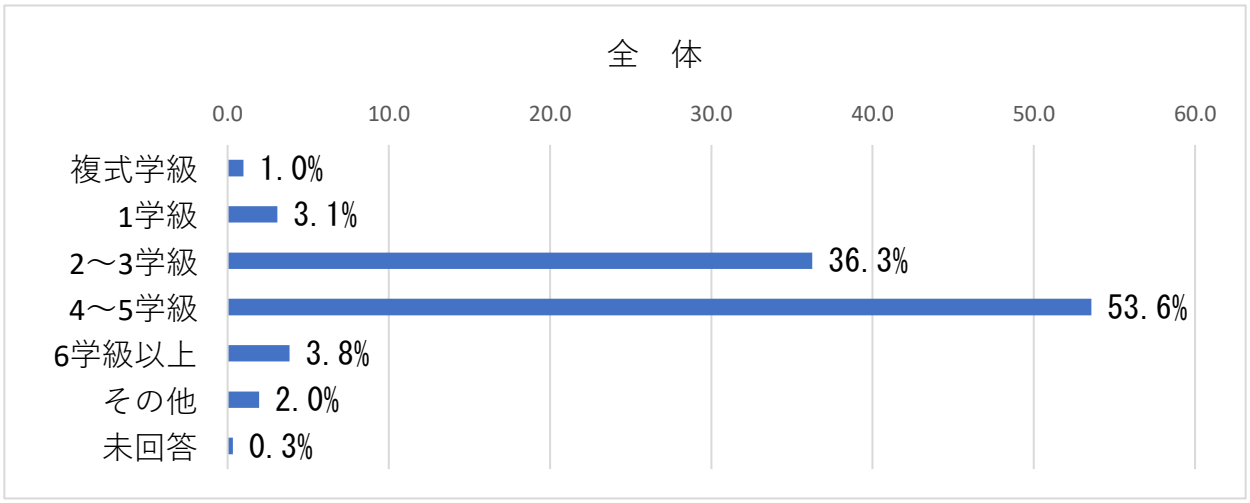
※単式学級の学校：岬・見初・鵜の島・厚東・船木

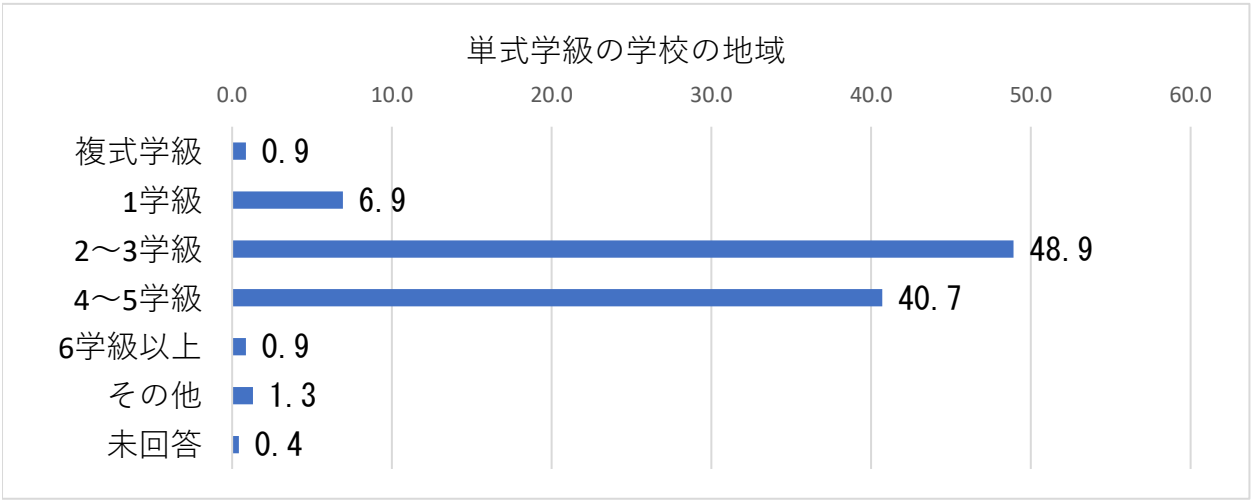


※複式学級の学校：二俣瀬・小野・吉部・万倉

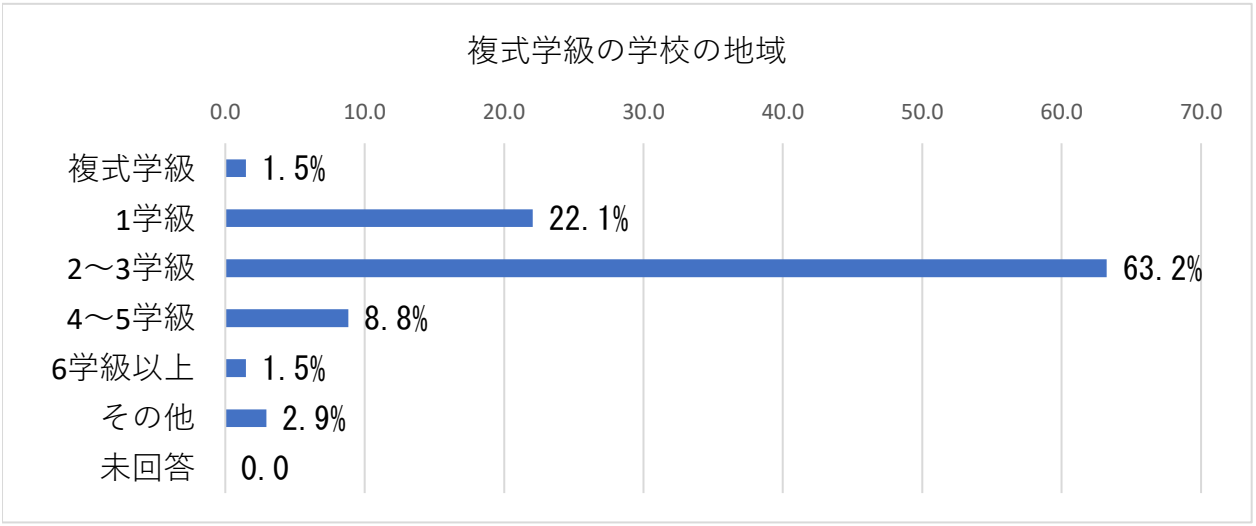
中学校１学級の生徒数として全体では、26～30人が46.6％と最も高く、単式学級の学校の地域では、21～25人、26～30人が３4％程度の割合であり、複式学級の学校の地域では16～20人が32.9％となっており、高い割合を示した人数は、小学校の児童数の場合とほぼ同様の結果となっている。

問７　中学校の１学年の学級の構成としては、どれくらいが適切だと思いますか。





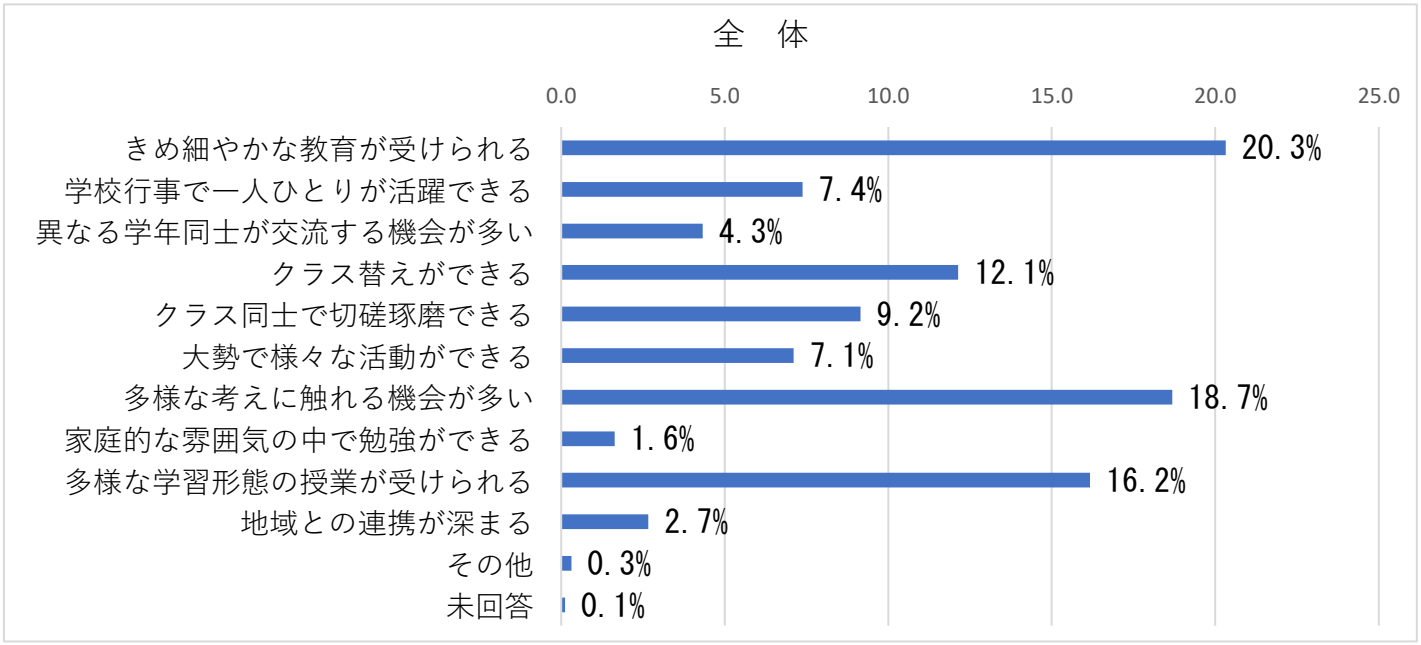
※単式学級の学校：岬・見初・鵜の島・厚東・船木

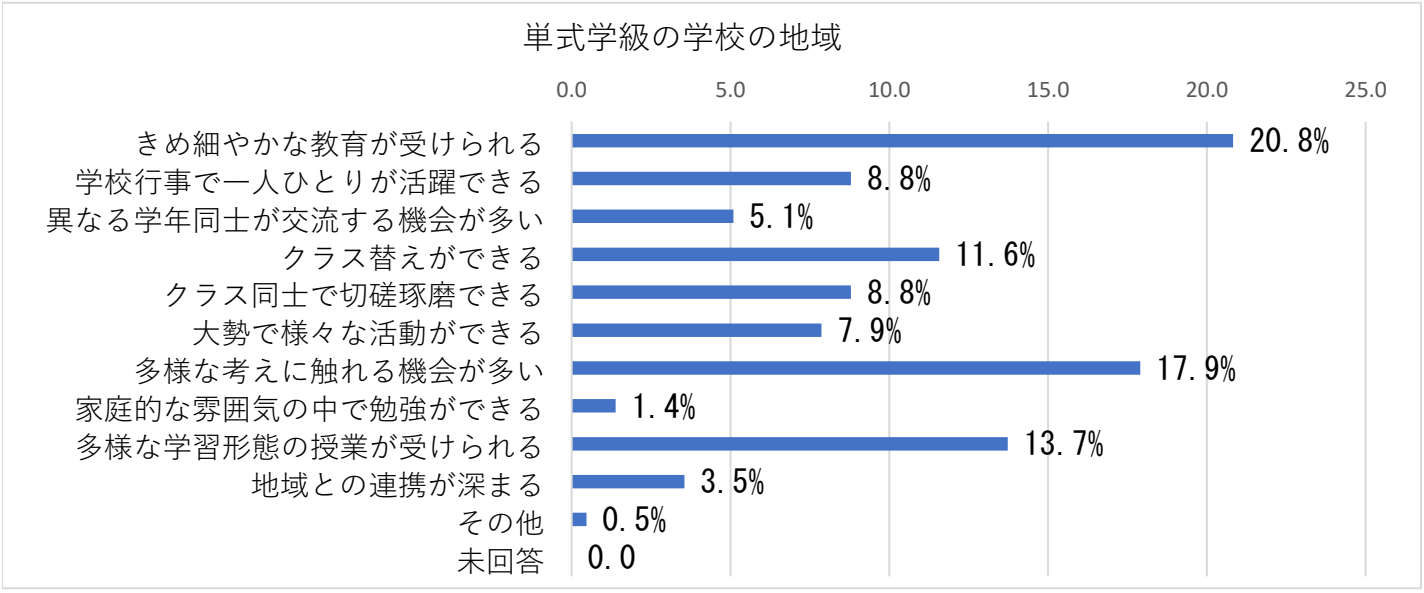


※複式学級の学校：二俣瀬・小野・吉部・万倉

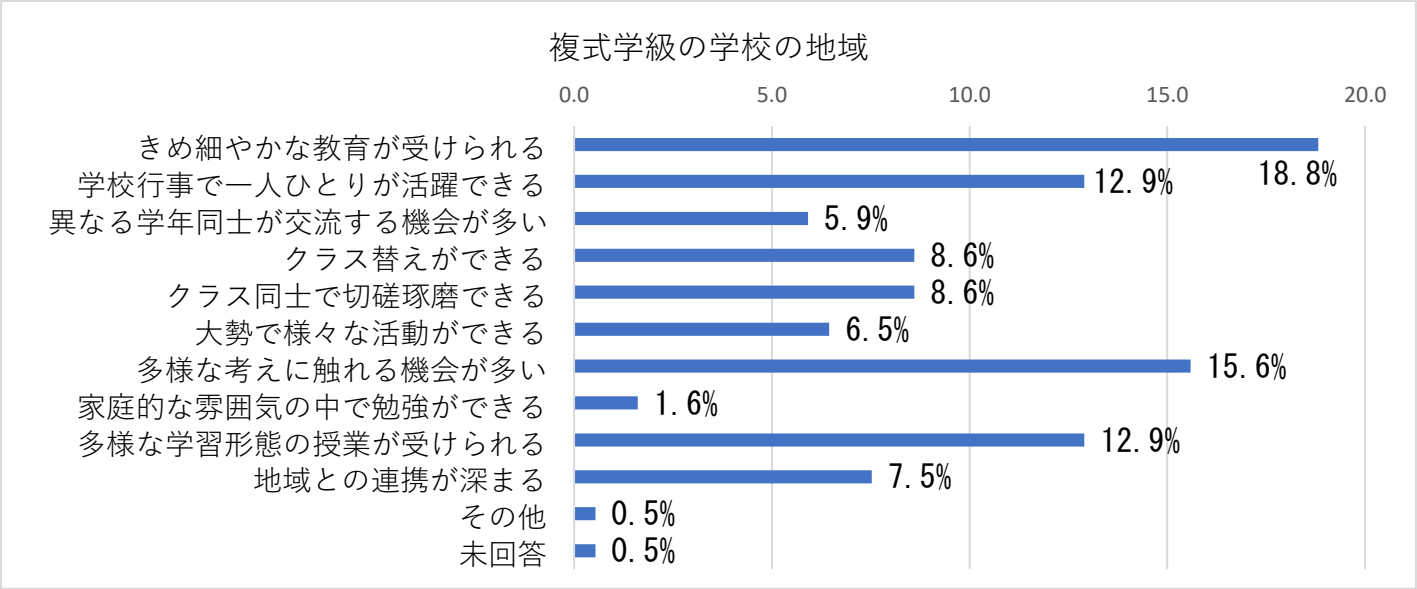
中学校の1学年の学級構成としては、全体では４～５学級が53.6%と最も多く、続いて２～3学級が36.3%、単式学級の学校の地域では２～3学級が48.9%と最も多く、複式学級の学校の地域では63.2%となり、全体や小規模学校の地域で若干差がみられるものの、４～５または２～３学級が適切の割合が高くなっている。

問８　中学校の規模を考えるうえで、あなたが大切だと思う点をお答えください(３つ以内に〇)





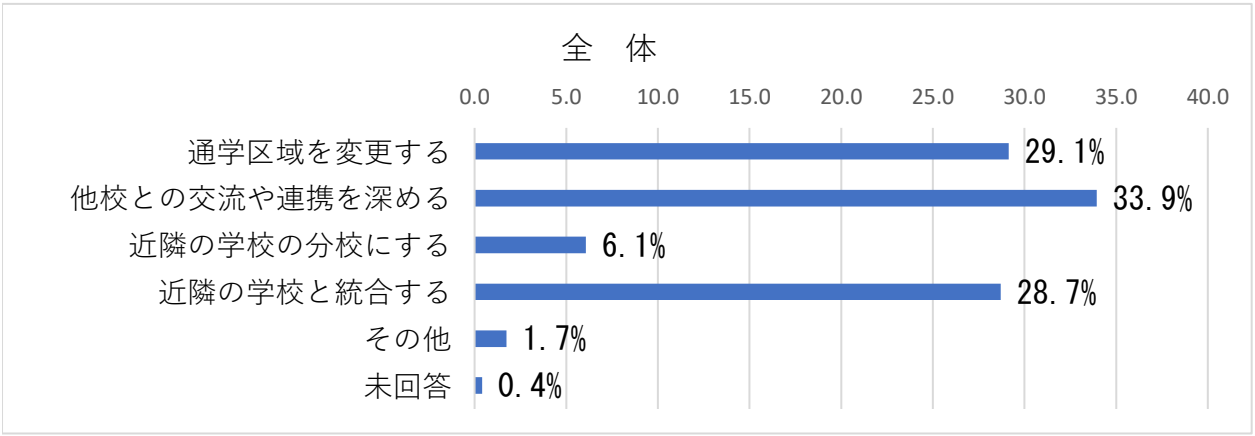
※単式学級の学校：岬・見初・鵜の島・厚東・船木

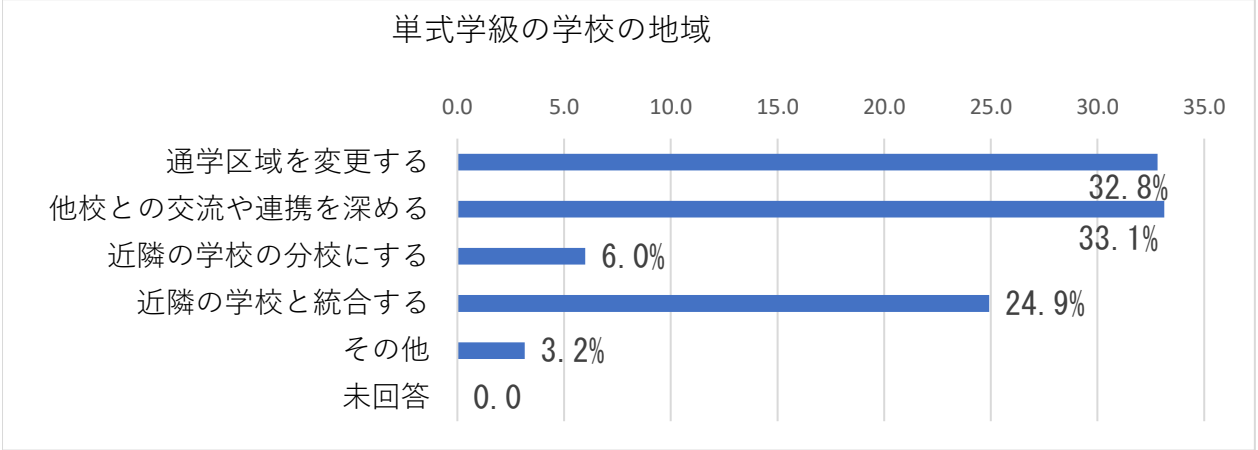


※複式学級の学校：二俣瀬・小野・吉部・万倉

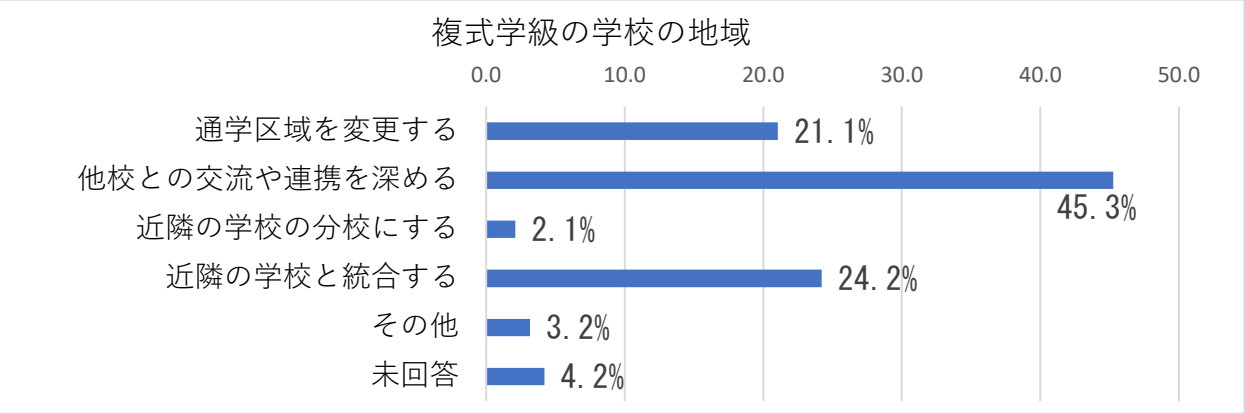
中学校の規模を考えるうえで大切と思う点について、全体いおいても小規模校の地域別においても「きめ細やかな教育が受けられる」「多様な考えに触れる機会が多い」の順に高い割合を示しており、中学校においては、続いて「多様な学習形態の授業が受けられる」が高い割合となっている。また、複式学級の学校の地域においては、同率で「学校行事で一人ひとりが活躍できる」となっている。

問９　児童生徒数が少ない小規模校の対応として、どの方法が適当だと考えますか。
（２つ以内に〇）





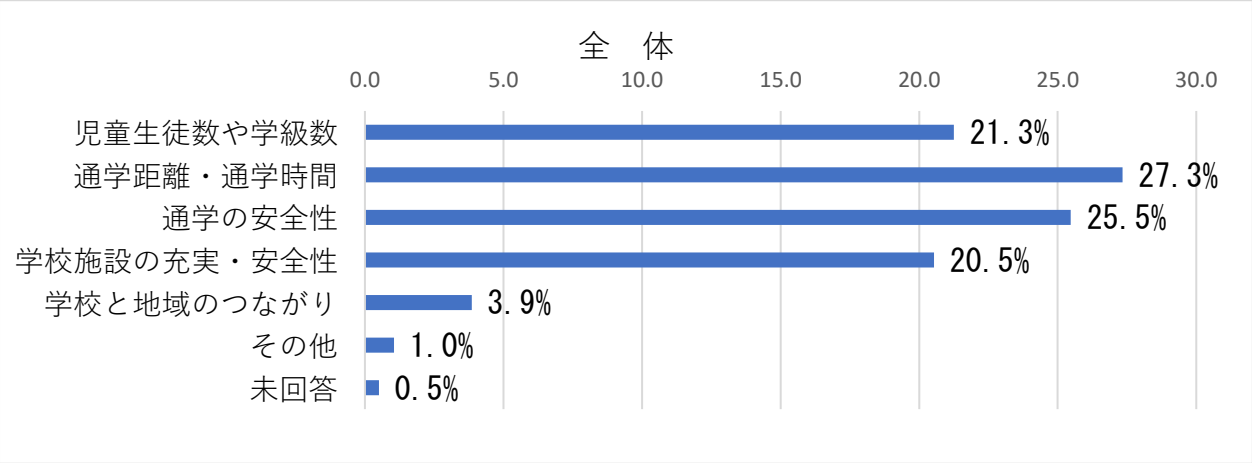
※単式学級の学校：岬・見初・鵜の島・厚東・船木

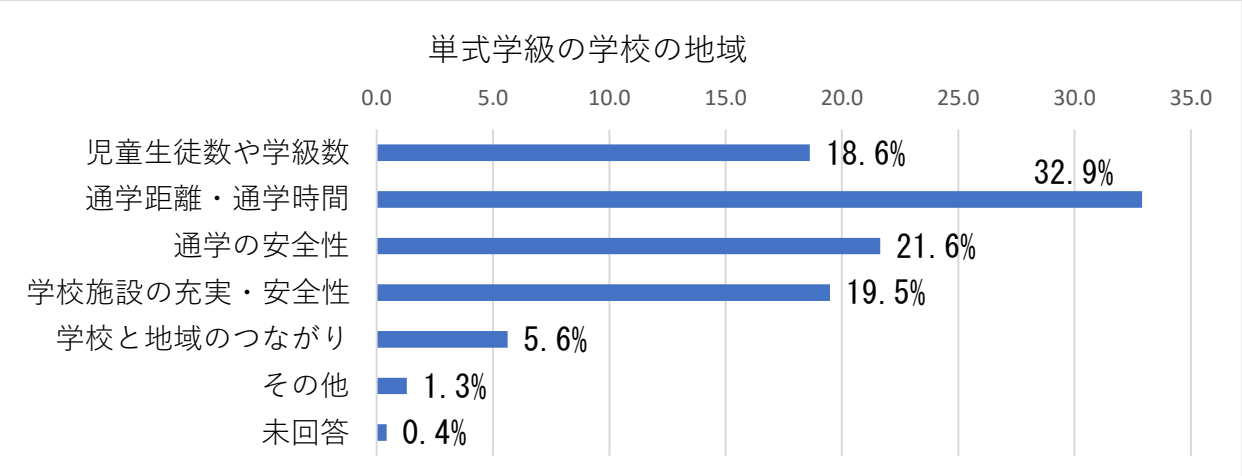


※複式学級の学校：二俣瀬・小野・吉部・万倉

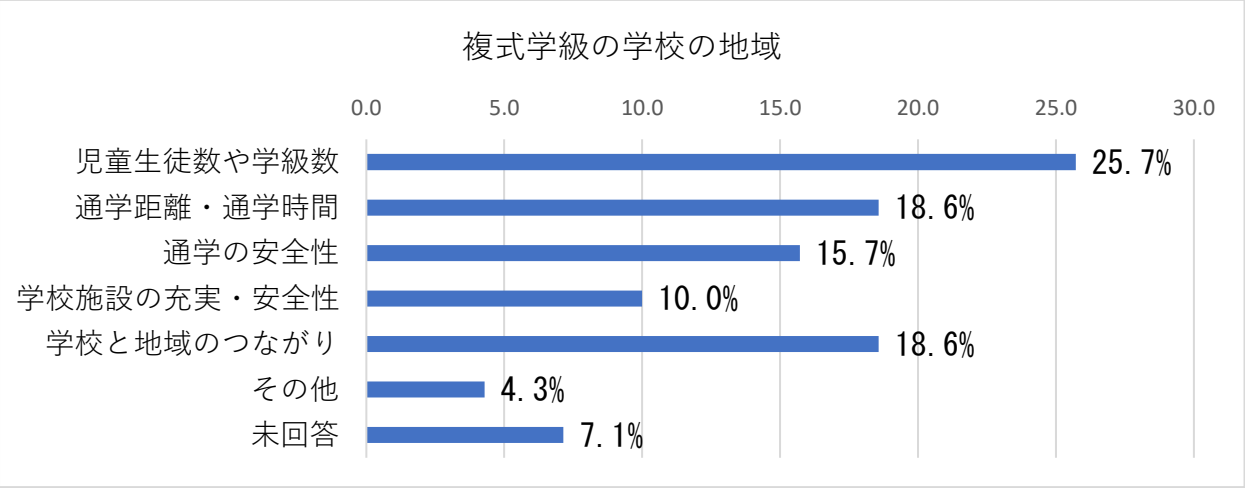
小規模校の対応として、全体では「他校との交流や連携を深める」「通学区域を変更する」「近隣の学校と統合する」の割合が３０％前後となっている。単式学級の学校の地域においては、その中でも「他校との交流や連携を深める」と「通学区域を変更する」の割合の差がより少なくなっている。また、複式学級の学校の地域においては、「他校との交流や連携を深める」の割合が高くなっている。

問１０　小学校の配置の見直しを進めるうえで、特に重視するべき点は何ですか。





※単式学級の学校：岬・見初・鵜の島・厚東・船木



※複式学級の学校：二俣瀬・小野・吉部・万倉

小学校の配置の見直しを進めるうえで、特に重視すべき点として全体では、「通学距離・通学時間」「通学の安全性」「児童生徒数や学級数」の順となっている。単式学級の学校の地域では、「児童生徒数や学級数」より「学校施設の充実・安全性」の割合が若干高くなっている。また、複式学級の学校の地域では、「児童生徒数や学級数」が一番高く、続いて同率で、「通学距離・通学時間」「学校と地域のつながり」となっている。

小学５年生回答

資料２－１

問１　あなたの学校名をお答えください。

1　東岐波小学校	134	13　原小学校	46
2　西岐波小学校	141	14　厚東小学校	12
3　恩田小学校	121	15　二俣瀬小学校	4
4　上宇部小学校	122	16　小野小学校	4
5　岬小学校	1	17　常盤小学校	75
6　見初小学校	17	18　小羽山小学校	27
7　琴芝小学校	48	19　西宇部小学校	28
8　神原小学校	47	20　川上小学校	63
9　新川小学校	90	21　黒石小学校	103
10　鵜ノ島小学校	14	22　吉部小学校	6
11　藤山小学校	53	23　万倉小学校	7
12　厚南小学校	112	24　船木小学校	23
			900

問２（小）　あなたの学校まで通学するのにどのくらい通学時間がかかりますか。

E	1　15分以内	2　30分以内	3　45分以内	4　60分以内	5　60分を超える	未回答	合　　計
1　東岐波小学校	42	51	28	10	2	1	134
2　西岐波小学校	40	77	12	10	2	0	141
3　恩田小学校	44	56	17	4	0	0	121
4　上宇部小学校	58	47	13	4	0	0	122
5　岬小学校	0	1	0	0	0	0	1
6　見初小学校	14	3	0	0	0	0	17
7　琴芝小学校	26	19	3	0	0	0	48
8　神原小学校	25	18	4	0	0	0	47
9　新川小学校	48	36	5	0	0	1	90
10　鵜ノ島小学校	10	4	0	0	0	0	14
11　藤山小学校	25	19	9	0	0	0	53
12　厚南小学校	61	43	6	2	0	0	112
13　原小学校	16	22	6	2	0	0	46
14　厚東小学校	2	0	8	2	0	0	12
15　二俣瀬小学校	2	2	0	0	0	0	4
16　小野小学校	3	0	1	0	0	0	4
17　常盤小学校	25	29	17	3	1	0	75
18　小羽山小学校	16	7	3	1	0	0	27
19　西宇部小学校	7	11	4	5	1	0	28
20　川上小学校	16	29	13	3	2	0	63
21　黒石小学校	60	33	7	2	1	0	103
22　吉部小学校	5	0	0	0	1	0	6
23　万倉小学校	1	6	0	0	0	0	7
24　船木小学校	12	10	1	0	0	0	23
小合計	558	523	157	48	10	2	1298

通学時間は「１５分以内」が４３.０％「３０分以内」が４０.３％と併せて８３.３％の児童の通学時間は３０分以内となっている
一方で６０分を超える児童も０.７７％見られる。

問３（小）　あなたの学校までの通学距離についてどのように感じていますか。

F	1　近い	2　少し近い	3　ちょうどよい	4　少し遠い	5　遠い	未回答	合　　計
1　東岐波小学校	17	9	29	50	28	1	134
2　西岐波小学校	15	13	40	44	29	0	141
3　恩田小学校	19	10	40	44	8	0	121
4　上宇部小学校	18	15	33	40	16	0	122
5　岬小学校	0	0	0	1	0	0	1
6　見初小学校	7	4	4	0	2	0	17
7　琴芝小学校	12	6	14	12	4	0	48
8　神原小学校	13	4	17	9	4	0	47
9　新川小学校	20	11	28	15	15	1	90
10　鵜ノ島小学校	4	1	5	3	1	0	14
11　藤山小学校	10	4	10	16	13	0	53
12　厚南小学校	24	15	33	32	8	0	112
13　原小学校	8	4	13	15	6	0	46
14　厚東小学校	2	0	1	8	1	0	12
15　二俣瀬小学校	0	1	1	1	1	0	4
16　小野小学校	1	2	0	1	0	0	4
17　常盤小学校	11	8	20	28	8	0	75
18　小羽山小学校	4	2	11	7	3	0	27
19　西宇部小学校	4	2	10	6	6	0	28
20　川上小学校	7	6	17	25	8	0	63
21　黒石小学校	18	19	30	24	11	1	103
22　吉部小学校	1	1	1	2	1	0	6
23　万倉小学校	1	0	5	1	0	0	7
24　船木小学校	1	3	7	7	5	0	23
合計	217	140	369	391	178	3	1298

通学距離については、「少し遠い」が３０.１％、「ちょうどよい」が２８.４％「近い」「少し近い」が併せて２７.５％となっており、ばらつきが見られる。

問４（小）　学校での、あなたの学年全体の人数（学年の合計人数）についてどう思いますか。

G	1　多すぎる	2　多い	3　ちょうどよい	4　少ない	5　少なすぎる	未回答	合　　計
1　東岐波小学校	2	14	91	23	3	1	134
2　西岐波小学校	2	11	115	13	0	0	141
3　恩田小学校	5	32	83	1	0	0	121
4　上宇部小学校	3	24	84	11	0	0	122
5　岬小学校	0	0	0	0	1	0	1
6　見初小学校	0	0	5	11	1	0	17
7　琴芝小学校	0	1	42	4	1	0	48
8　神原小学校	1	1	28	13	4	0	47
9　新川小学校	3	23	56	4	3	1	90
10　鵜ノ島小学校	0	1	12	1	0	0	14
11　藤山小学校	3	10	38	2	0	0	53
12　厚南小学校	2	18	88	4	0	0	112
13　原小学校	0	4	29	11	2	0	46
14　厚東小学校	0	0	11	1	0	0	12
15　二俣瀬小学校	0	0	2	0	2	0	4
16　小野小学校	0	0	0	2	2	0	4
17　常盤小学校	1	5	52	14	3	0	75
18　小羽山小学校	0	2	22	3	0	0	27
19　西宇部小学校	0	0	22	5	1	0	28
20　川上小学校	1	5	46	9	2	0	63
21　黒石小学校	4	25	70	3	1	0	103
22　吉部小学校	0	0	6	0	0	0	6
23　万倉小学校	0	0	7	0	0	0	7
24　船木小学校	0	1	19	1	1	1	23
小合計	27	177	928	136	27	3	1,298

学年全体の人数については、７１.５％の児童が「ちょうどよい」と回答しているが、見初小学校、小野小学校の児童が「少ない」「少なすぎる」の回答が「ちょうどよい」の回答を上回っており、二俣瀬小学校も「ちょうどよい」と「少なすぎる」の回答が、同数となっている。また、岬小学校の児童の回答者は１名であるが「少なすぎる」と回答している。

問５（小）　学校でのあなたの学年全体の人数（学年の合計人数）について、今と比べてどのように思いますか。

H	1　もっと多い	2　今のままでよい	3　もっと少ない	未回答	合　　計
1　東岐波小学校	34	87	12	1	134
2　西岐波小学校	20	118	2	1	141
3　恩田小学校	15	88	13	5	121
4　上宇部小学校	16	86	16	4	122
5　岬小学校	1	0	0	0	1
6　見初小学校	8	9	0	0	17
7　琴芝小学校	6	40	2	0	48
8　神原小学校	5	41	1	0	47
9　新川小学校	14	64	8	4	90
10　鵜ノ島小学校	0	13	1	0	14
11　藤山小学校	5	45	3	0	53
12　厚南小学校	8	94	9	1	112
13　原小学校	12	32	0	2	46
14　厚東小学校	1	10	0	1	12
15　二俣瀬小学校	2	2	0	0	4
16　小野小学校	3	1	0	0	4
17　常盤小学校	16	54	4	1	75
18　小羽山小学校	3	22	2	0	27
19　西宇部小学校	5	22	1	0	28
20　川上小学校	17	41	5	0	63
21　黒石小学校	14	76	11	2	103
22　吉部小学校	0	6	0	0	6
23　万倉小学校	0	7	0	0	7
24　船木小学校	4	19	0	0	23
小合計	209	977	90	22	1,298

学年全体の人数について、「今のままでよい」との回答の割合は７５.３％で、続いて「もっと多いほうがよい」の割合が１６．１％となっている。また、見初小学校で４７.１％、二俣瀬小学校５０％、小野小学校で７５％の児童が「もっと多いほうがよい」と回答している。

【もっと多いほうがよい理由】
・もっといろんな人と学んだり、遊んだりしたい
・5年生のにんずうがすくないから
・たくさん友達ができるから
・にぎやかなほうが良いから
・ほかの学校に比べて人数が少ないから
・クラス替えとかスポーツとか多いほうがいいから
・クラブの人数がすくなくなっているから
・たくさんの人の意見を聞けるから
・少子化が進み、学校が廃校するかもしれないから
・人数が少ないとふくしきじゅぎょうで2つの学年を1人の先生が担当していてたまにいないときがあるから。
・男子が少なすぎる

【今のままでよい理由】
・困ることは無いから
・人数が多いと楽しいから
・多すぎても、少なすぎも、嫌だから
・今のままでも十分みんなと仲良くできているから
・学習でみんながいつも発表できるから
・多かったらおちつかないから

【もっと少ないほうがよい理由】
・コロナにもならいしみつにもならないから
・静かなほうがいいから
・一クラス30人だからちょっと多い

資料２－２

中学２年生回答

問１　あなたの学校名をお答えください。

25　東岐波中学校	45
26　西岐波中学校	73
27　常盤中学校	22
28　上宇部中学校	108
29　神原中学校	44
30　桃山中学校	32
31　藤山中学校	25
32　厚南中学校	33
33　川上中学校	62
34　黒石中学校	115
35　楠中学校	23
36　厚東川中学校	18
	600

問２（中）　あなたの学校まで通学するのにどのくらい通学時間がかかりますか。

E	1　15分以内	2　30分以内	3　45分以内	4　60分以内	5　60分を超える	未回答	合　　計
25　東岐波中学校	17	23	4	1	0	0	45
26　西岐波中学校	40	31	2	0	0	0	73
27　常盤中学校	6	16	0	0	0	0	22
28　上宇部中学校	49	51	8	0	0	0	108
29　神原中学校	17	22	5	0	0	0	44
30　桃山中学校	17	12	3	0	0	0	32
31　藤山中学校	17	7	0	1	0	0	25
32　厚南中学校	13	17	3	0	0	0	33
33　川上中学校	20	33	6	2	1	0	62
34　黒石中学校	33	66	13	3	0	0	115
35　楠中学校	15	7	0	0	0	1	23
36　厚東川中学校	2	13	1	1	1	0	18
中合計	246	298	45	8	2	1	600

通学時間は１５分以内が４１％、３０分以内が４９.７％で両方合わせると、約９割の生徒の通学時間は３０分以内となっている。

問３（中）　あなたの学校までの通学距離についてどのように感じていますか。

F	1　近い	2　少し近い	3　ちょうどよい	4　少し遠い	5　遠い	未回答	合　　計
25　東岐波中学校	5	3	15	14	8	0	45
26　西岐波中学校	6	2	29	25	11	0	73
27　常盤中学校	2	4	4	9	3	0	22
28　上宇部中学校	7	20	37	32	12	0	108
29　神原中学校	9	3	13	18	1	0	44
30　桃山中学校	7	4	10	10	1	0	32
31　藤山中学校	3	4	5	11	2	0	25
32　厚南中学校	6	1	10	13	3	0	33
33　川上中学校	10	5	18	19	10	0	62
34　黒石中学校	15	8	30	40	22	0	115
35　楠中学校	3	3	9	6	2	0	23
36　厚東川中学校	2	0	4	6	6	0	18
中合計	75	57	184	203	81	0	600

通学時間は３０分以内の生徒が大半であり、「近い」「少し近い」「ちょうどよい」合わせた割合は５２.７％となっているが、一方で「少し遠い」「遠い」と感じる生徒の割合も４７.３％ある。

問４（中）　学校での、あなたの学年全体の人数（学年の合計人数）についてどう思いますか。

G	1　多すぎる	2　多い	3　ちょうどよい	4　少ない	5　少なすぎる	未回答	合　　計
25　東岐波中学校	1	0	36	8	0	0	45
26　西岐波中学校	2	10	60	1	0	0	73
27　常盤中学校	2	7	12	1	0	0	22
28　上宇部中学校	4	7	87	9	1	0	108
29　神原中学校	0	0	35	9	0	0	44
30　桃山中学校	0	6	23	1	2	0	32
31　藤山中学校	0	0	17	8	0	0	25
32　厚南中学校	0	11	22	0	0	0	33
33　川上中学校	2	6	27	20	7	0	62
34　黒石中学校	4	32	67	8	3	1	115
35　楠中学校	0	0	7	13	3	0	23
36　厚東川中学校	1	0	15	2	0	0	18
中合計	16	79	408	80	16	1	600

学校全体の人数について、「少ない」または「多い」と感じている生徒もそれぞれ１３％程度みられる。
また、楠中学校では「ちょうどよい」より、「少ない」と感じている生徒の割合が高くなっている。

問５（中）　学校でのあなたの学年全体の人数（学年の合計人数）について、今と比べてどのように思いますか。

H	1　もっと多い方がよい	2　今のままでよい	3　もっと少ない方がよい	未回答	合　　計
25　東岐波中学校	7	37	1	0	45
26　西岐波中学校	0	62	11	0	73
27　常盤中学校	3	15	4	0	22
28　上宇部中学校	9	94	5	0	108
29　神原中学校	6	38	0	0	44
30　桃山中学校	3	27	2	0	32
31　藤山中学校	5	20	0	0	25
32　厚南中学校	0	24	9	0	33
33　川上中学校	14	41	5	2	62
34　黒石中学校	15	83	17	0	115
35　楠中学校	10	13	0	0	23
36　厚東川中学校	1	17	0	0	18
中合計	73	471	54	2	600

学年全体の人数については、「今のままでよい」が７８.５％で一番多いが、「もっと多いほうがよい」が１２.２％、「もっと少ない方がよい」が９％あった。
また、「ちょうどよい」より「少ない」と感じている生徒が多かった楠中学校の生徒においては、４３.５％の生徒が「もっと多い方がよい」と回答している。

【もっと多いほうがよい理由】
・いっぱい友達とコミュニケーションができるから
・イベントなどが盛り上がるから

・その分多く関われるから
・クラスが多くなるから
・クラスが少ないと面白くない
・にぎやかでたのしそうだから
・もっと学校生活が楽しくなると思うから
・もっといろんな人と出会いたいから
・もっと関わりの深い友達が欲しいから
・このまま少なくなっていくと何十年後には閉校になってしまうかもしれないから
・学年での人数が少ないと、定期テストで学年順位を見たときに自分の実力がいまいち分からなかったり、

【今のままでよい理由】
・多すぎず少なすぎずだから
・特に困ることがないから
・みんな仲がいいから
・今のままで充分楽しいから
・先生が、一人一人に接してくれるから

【もっと少ないほうがよい理由】
・元気がありすぎてうるさいから
・人が多いと、トラブルの数が多くなるから
・人が多いのが嫌いだから
・教室にゆとりを持ちたい

令和4年度第3回　うべ未来モニターアンケート集計結果

資料　3

1　アンケートのテーマ

『学校の規模や配置に関するアンケート調査』

実施期間　令和4年6月24日（金）～7月10日（日）まで

2　モニター数・アンケート回答者数

(1)　メール・郵送文書到達モニター数　868 人

(2)　回答者数（回答率）　401 人　(46.2 %)

3　回答者の属性

【年代】

項目	比率	グラフ
10歳代	0.5 %	
20歳代	0.7 %	
30歳代	8.5 %	
40歳代	16.7 %	
50歳代	19.0 %	
60歳代	21.9 %	
70歳代	29.9 %	
80歳代	2.7 %	

年代としては、70代が約３０％と多く続いて60代、50代の順になっている。

【居住校区】

項目	比率	グラフ
東岐波	6.0 %	
西岐波	7.2 %	
恩田	11.5 %	
岬	3.2 %	
見初	2.5 %	
上宇部	7.5 %	
神原	4.0 %	
琴芝	6.2 %	
新川	4.7 %	
鵜の島	2.7 %	
藤山	3.7 %	
原	2.2 %	
厚東	1.2 %	
二俣瀬	2.2 %	
小野	3.0 %	
小羽山	3.2 %	
常盤	4.2 %	
川上	3.5 %	
厚南	3.2 %	
西宇部	6.7 %	
黒石	3.2 %	
船木	2.0 %	
万倉	2.0 %	
吉部	2.0 %	
在学・在勤	1.7 %	

4　回答集計

【問1】あなたは、小学校の１学級の児童数としては、何人くらいが望ましいと思いま

項目	比率	グラフ
1　１０人以下	1.0 %	
2　１１～１５人	2.5 %	
3　１６～２０人	12.0 %	
4　２１～２５人	32.9 %	
5　２６～３０人	35.9 %	
6　３１～３５人	10.5 %	
7　３６人以上	2.7 %	
8　その他	2.5 %	

小学校1学級の児童数としては、21～25人、２６～30人が３０%程度と多くなっている。

【問2】小学校の１学年の学級の構成としてはどれくらいが適切だと思いますか。

項目	比率	グラフ
1　複式学級（異なる学年が同じ学級に所属する	4.5 %	
2　１学級	4.5 %	
3　２～３学級	75.8 %	
4　４学級以上	11.2 %	
5　その他	4.0 %	

小学校の1学年の学級の構成としては、2～3学級が７５．８%と、他の学級数と比較して突出して多くなっている。

【問3】小学校の規模を考えるうえで、あなたが大切だと思う点をお答えください。（３つ以内に〇）

項目	比率	グラフ
1　きめ細やかな教育が受けられる	18.9 %	
2　学校行事で一人ひとりが活躍できる	8.4 %	
3　異なる学年同士が交流する機会が多い	10.3 %	
4　クラス替えができる	15.2 %	
5　クラス同士で切磋琢磨できる	5.1 %	
6　大勢で様々な活動ができる	6.5 %	
7　多様な考えに触れる機会が多い	15.2 %	
8　家庭的な雰囲気の中で勉強ができる	1.8 %	
9　多様な学習形態の授業が受けられる	10.4 %	
10　地域との連携が深まる	7.6 %	
11　その他	0.6 %	

小学校の規模を考えるうえで、大切だと思う点については、「きめ細やかな教育が受けられる」が１８・９%と一番多く、続いて「クラス替えができる」「多様な考えに触れる機会が多い」が１５．２%と同率となっている。

【問４】あなたは、中学校の1学級の生徒数としては、何人くらいが望ましいと思いま

項目	比率	グラフ
1　１０人以下	0.7 %	
2　１１～１５人	1.5 %	
3　１６～２０人	10.2 %	
4　２１～２５人	21.4 %	
5　２６～３０人	41.1 %	
6　３１～３５人	20.0 %	
7　３６人以上	2.5 %	
8　その他	2.5 %	

中学校1学級の生徒数としては、２６～３０人が４１．１%と一番多く、続いて２１～２５人、３１～３５人が２０%程度の割合となっている。

【問5】中学校の１学年の学級の構成としては、どれくらいが適切だと思いますか。

項目	比率	グラフ
1　複式学級（異なる学年が同じ学級に所属する形）	2.2 %	
2　１学級	1.5 %	
3　２～３学級	35.7 %	
4　４～５学級	53.1 %	
5　６学級以上	4.5 %	
6　その他	3.0 %	

中学校の1学年の学級の構成としては、４～５学級が５３．１%と多く、次に２～３学級となっており、小学校より多い学級数が適切とする割合が高くなっている。

【問6】中学校の規模を考えるうえで、あなたが大切だと思う点をお答えください。（３つ以内に〇）

項目	比率	グラフ
1　きめ細やかな教育が受けられる	15.8 %	
2　学校行事で一人ひとりが活躍できる	7.5 %	
3　異なる学年同士が交流する機会が多い	6.4 %	
4　クラス替えができる	13.5 %	
5　クラス同士で切磋琢磨できる	9.2 %	
6　大勢で様々な活動ができる	8.8 %	
7　多様な考えに触れる機会が多い	19.2 %	
8　家庭的な雰囲気の中で勉強ができる	0.4 %	
9　多様な学習形態の授業が受けられる	13.6 %	
10　地域との連携が深まる	5.2 %	
11　その他	0.3 %	

中学校の規模を考えるうえで、大切だと思う点については、「多様な考えに触れる機会が多い」が１９．２%と一番多いが、「きめ細やかな教育が受けられる」「クラス替えができる」「多様な学習形態の授業が受けられる」が１３～１５%程度ある。

【問７】児童生徒数が少ない小規模校の対応として、どの方法が適当だと考えますか。（２つ以内に〇）

項目	比率	グラフ
1　通学区域を変更する（隣接する大規模校の通学区域の一部を小規模校へ変更するなど）	34.3 %	
2　他校との交流や連携を深める（ICTを活用した遠隔授業など）	29.7 %	
3　近隣の学校の分校にする	3.0 %	
4　近隣の学校と統合する	30.3 %	
5　その他	2.8 %	

小規模校の対応としては、「通学区域を変更する」が３４．３%と最も多く、「近隣の学校と統合する」と合わせると６４．６%となり、区域変更や統合等により小規模化の解消が求められる一方、「他校との交流や連携を深める」も、３０%程度の割合がある。

【問8】小中学校の配置の見直しを進めるうえで、特に重視するべき点は何ですか。子どもたちにとって最適な教育環境を維持するという観点からお答えください。

項目	比率	グラフ
1　児童生徒数や学級数	26.7 %	
2　通学距離・通学時間	26.9 %	
3　通学の安全性	18.2 %	
4　学校施設の充実・安全性	13.7 %	
5　学校と地域のつながり	12.7 %	
6　その他	1.7 %	

小中学校の配置の見直しを進めるうえで特に重視すべき点については、「通学距離・通学時間」と「児童生徒数や学級数」が２６%台で多かった。続いて「通学の安全性」が１８.２%であったが「学校施設の充実・安全性」「学校と地域のつながり」についても１２～３%台と意見の分散も見られた。

資料　4

中学生ワークショップで出された意見（適正規模等に関するもの）

・他の学校と合同で集会や行事をやるとよい
・交流を増やす（男女間、学年間、異学年、小中高）
・規模が変わっても、学校同士や地域で協力して、いろんな人とのかかわりや意見を今まで以上に取り入れる。
・ズーム等（ＩＣＴ）を利用した他校との話し合いや授業の実施
・小中一貫での学習を進める
・小中合同の行事を作る
・高校生に特別授業をしてもらう。
・オンラインで高校生から授業を受ける
・定期的に地域の方と交流
・学校の統合

資料　5

キーワード（まとめの中で共通したワード）
・学校間の交流（ＩＣＴの活用）
・地域との連携
・学校統合・地域の再編
・自由選択制
・専門家の活用（専門職・地域人）
・スクールバスの充実（公共交通）

市民ワークショップで出された意見

（午前の部）

◆１班
・近隣の学校との交流を増やす。
・スクールバスの充実。バス通学を認める。

◆２班
・自由な学校の選択ができるとよい。
小規模の学校の子どもたちが大きな学校にも行ける。また、その逆など。
そのための支援策を考えていく（就学する間の住居のレンタルなど）
学校の良い発信になるのでは。

◆３班
・将来的には校区の見直しが必要になる
・宇部市内を３つに分けて大きな学校にしてうまく回していく。
登校する日としない日を決めて、登校しない日はタブレットを利用しリモートで授業を受けるなど
・先生のレベルを上げる。教育のレベルを上げるため先生を育てる。

◆４班
・校区の変更や統廃合必要
・先生の数が少ない。新任の先生に学童の体験をしてもらうなどもするとよい。
・学校・保護者・地域が繋がれる仕組みづくり

◆５班
・教育予算をたくさん取る。先生方の人数増やす。
・子どもの発達面から人数を考える。先進国は２５人から２０人にしようとしている（目が行き届く）
・先生の労働環境の改善（部活顧問・事務仕事など）
・施設（体育館やプールなど）何校かで共有
・通学の距離など勘案し、地域を再編成する。
・学校を自由選択制にする
・地域・PTA の努力も必要

◆６班
・小規模校ほど地域と学校の結びつきが強い。
・違う学校に通ってみる（大規模校・小規模校の良い面・悪い面の体験）。

◆７班
・先生が１０人に１人いると充実するのでは
・１学年１クラスだと入れ替わりない→統合して２．３クラスになるとよい
・タブレットの活用（保護者との書類のやり取り多すぎる。→先生の働き方改

革）
◆８班
・国際化に対応必要
・地域と保護者は協力したいと待っているが、学校の運営は先生中心
・先生の労働環境の改善→新しいことやれない（先生に要望出しにくい）
◆９班
・先生方の負担が多い
・１クラスは２０人くらいが望ましい

（午後の部）
◆１班
・学校に行かなくても、授業を受けられるようにする。
・少人数学級の良さ。
◆２班
・学校と地域の連携（体験授業を増やす）
・他校とのふれあい必要（他校を知ることは子どもたちにとって刺激になる）
・リモート授業の促進
・学校の自由選択制
◆３班
・学校で楽しく学ぶためには授業の多様性必要→専門職員の配置
・他校との交流。ICT の活用
・地域人材の活用（もっと学校に取り込む）
・教育面・財政面からも、学校再編は必要
・小学校を核としたコミュニティから、中学校を中心としたコミュニティに変えていく（下関・周南など他市では進んでいる）
・義務教育学校制度の導入
・学校規模としては、文科省の示している学校の規模が必要。その中で少人数学級の推進
◆４班
・適正規模を生み出す。先生の数も考える。そのためには、未来の宇部市の教育をどう考えているのか、市長・教育長の考えを聞きたい→強いリーダーシップ必要
・社会性はぐくむ教育が必要（税金・社会保障・少子化の恐ろしさなど）→地域に残りたいと考える子どもたちを育てる
・専門の先生の活用（情報教育など）

◆５班
・規模の適正化。自由度のアップ→宇部市を東西南北で４校にする。統廃合の推進
・その代わりに教育環境を整える。スクーリング制の導入。ICT の活用
・毎日学校に行かなくてもよい→外に出て体験活動を増やす。
・専門職の活用→学習は効率的にやりながら、地域とのかかわり増やす。地域の中で育てる。
・学校に行きやすい環境の整備→スクールバスや、公共交通の充実。
◆６班
・他校の授業を受けられるようにする。大規模↔小規模
・学校の中に子どもの特性に合った居場所の提供
・統廃合を進めるうえでスクールバスなど、送迎システムの充実
・統廃合進めたうえで、部活を増やす、グローバル教育・ＩＣＴ教育に力を入れる
→外部講師による様々な授業展開
◆７班
・学校の先生の多忙化の解消→地域の力を借りる
・近隣の学校間の情報の共有→授業を共同で行う
◆８班
・小規模校では地域との交流盛ん。学校と地域のつながりもっと深める
・校区割を柔軟に。特認校制度の見直し→北部から市内へもあってもよい
・そのためにはスクールバスの充実
・統廃合については、子どものためになっているのか、地域とともに考えていく必要がある

資料６

◆児童生徒に最適な教育環境を提供するための、

学校のあるべき姿と実現に向けた取組

（１）学校のあるべき姿

修正前：児童・生徒が、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける**集団規模**のもとで、**小中一貫教育**を完全実施し、義務教育9年間を通した子どもたちの確かな学び（健やかな成長）を保障する

修正後：児童・生徒が、多様な考え方に触れ、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける集団規模と安心・安全な教育環境のもとで、地域と連携を図りながら、義務教育9年間を見通したつながりのある教育を提供することにより、子どもたちの確かな学び（健やかな成長）を保障できる学校

【理想形】

修正前：子どもの社会性を育むことが出来る集団規模を確保しつつ、小中学校が、通学区域の中心にあり、同一敷地又は隣接地に小中学校がある義務教育学校の設置

修正後：子どもの社会性を育むことが出来る集団規模を有し、校区の中心に位置する同一敷地内に小中学校がある義務教育学校

（２）現状(問題点)

■小中一貫教育

①進学先の中学校が分かれる小学校では、進学する中学校によってめざす子ども像などの取り組みが異なるため、系統的な教育が難しい。

②中学校に接続する小学校が多いほど、児童生徒間、教職員間の直接的な交流や乗り入れ授業の実施は難しくなる。

③小規模校では、教員数の一人当たりの担当授業時間数が多くなるため、学校間交流に出向く時間を取ることが難しい。また、教科担任制の導入や中学校教員の小学校乗り入れ等の実施が難しい。

④小学校と中学校との距離が離れている場合は、交流をする際、移動時間がかかることなどの理由から実施が難しい。

＜小中一貫教育実施校＞

中学校	小学校
東岐波	東岐波
西岐波	西岐波・常盤
常盤	恩田・岬・常盤・琴芝
上宇部	上宇部・琴芝
神原	神原・見初
桃山	新川・小羽山・鵜ノ島
藤山	藤山・鵜ノ島
厚南	厚南・西宇部
厚東川	厚東・二俣瀬・小野
川上	川上
黒石	黒石・原
楠	船木・万倉・吉部

■集団規模

〇完全複式学級の学校が４校（北部地域）
〇全ての学年が１学級が５校（中心市街地）

〇国の基準による標準学級数の学校が９校

〇国が示す大規模校基準（25学級以上）の学校はない
〇恩田小は6年後も23学級であり、近隣の学校規模との差が生じている

＜令和4年度の学級数と児童･生徒数＞

令和４年５月１日現在

小学校名（児童数）	校数	学級数	校数	中学校名（生徒数）
小野（18）、万倉（28）、二俣瀬（25）、吉部（22）	4	3	2	厚東川（44）、楠（89）
複式学級	0	4	0	全ての学年が1学級
	0	5	0	
岬（154）、船木（127）、鵜ノ島（128）、見初（104）、厚東（73）	5	6	0	
全ての学年が1学級	0	7	1	神原（198）
	0	8	1	川上（230）
	0	9	0	
	0	10	1	東岐波（293）
小羽山（301）	1	11	2	藤山（328）、桃山（326）
西宇部（274）、神原（334）、琴芝（280）、原（291）	4	12	2	厚南（382）、上宇部（403）
川上（417）	1	13	2	黒石（430）、西岐波（435）
	0	14	0	
	0	15	0	
新川（469）	1	16	0	
常盤（449）	1	17	1	常盤（529）
12～18学級 厚南（578）、藤山（520）	2	18	0	12～18学級
東岐波（556）	1	19	0	
上宇部（614）	1	20	0	
黒石（681）	1	21	0	
西岐波（678）	1	22	0	
19学級以上 恩田（712）	1	23	0	

〇全ての学年が１学級が２校(北部地域）

〇国の基準による標準学級数は満たしていないが、全ての学年でクラス替えができる２学級は超えている

〇常盤中は５００人を超えており、６年後も同水準の見込み

（３）あるべき姿の実現に向けた取組

■小中一貫教育の推進

修正前

①小中ブロックを見直し、進学先が分かれる小学校の解消を図る。(将来的に学校選択制は廃止)
②近接する小中学校や統合後も小規模が継続する学校では義務教育学校の設置も検討。

修正後

①小中ブロックを見直し、進学先が分かれる小学校の解消を図る。(将来的に学校選択制は廃止)
②小中学校の併設が可能な敷地条件等を満たす小中学校では義務教育学校の設置も検討。

■集団規模の確保

修正前

①一定の集団規模を確保していくため適正規模の基準を定める。
②適正規模の基準をもとに、通学区域の変更や適正配置を推進していく。

修正後

①子どもの就学環境(通学の距離や時間など）の実情を踏まえた、一定の集団規模を確保していくための適正規模の基準を定める。
②適正規模の基準をもとに、通学区域の変更や適正配置を検討していく。